



家と職場の往復だけの人生では物足りない

山崎 孝一

「足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ」の活動を通じて、地域の人々とつながり、社会を良くしていくことに意義を感じています。

「足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ」は、地域の人々とつながり、社会を良くしていくことに意義を感じています。活動を通じて、地域の人々とつながり、社会を良くしていくことに意義を感じています。



そくおん
足温ネット20年
あしあと おも
～その足跡と想い～

2017.6.4



足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ

1997~2002

足温ネット 誕生！

足温ネットは1997年1月に誕生しました。市民が主体的に取り組み、地球温暖化の影響を受けにくい地域社会をつくるためです。CO₂の数千倍の温室効果を持つフロンガスの回収に取り組んだ結果、区役所で事業化され、市民・事業者・行政が連携する対策モデルとなりました。こうして、自らの実践に基づき、しくみを作り出す行動パターンが形成されます。



この5年間のできごと

- 1996.11.29 任意団体として「気候フォーラム江戸川ネットワーク」設立を決定。その後、団体名を「足元から地球温暖化を考える市民ネットエどがわ」に変更
- 1996.12. 1 気候フォーラム設立集會に参加
- 1997. 1.12 「暮らしの中から・地域の中から温暖化を考える／江戸川区民の集い」を開催し、会を設立（清新町コミュニティー会館）
- 1997.06 区内の自動車解体業者の協力を得て、廃車カーエアコンからのフロン回収に取り組む
- 9.20 江戸川区と「江戸川発・京都経由・未来行き～脱フロン&温暖化ストップ！区民の集い」を開催（葛西区民館）
- 11. 8 ストップ！地球温暖化「列島縦横エコリレーin 江戸川」を開催（宇喜田公園）
- 1997.12. 2 気候変動枠組条約第3回締約国会議（京都市）に参加。現地でフォーラム「足元から地球温暖化を考える」を開催
- 1998. 4.22 アースデイ'98“温暖化防止”市民国会に参加。徹底討論「温暖化防止の法律を私たちの手で」に登壇
- 1999. 7. 4 区内の寺院に市民立・江戸川第一発電所（太陽光5.4kW）を建設、発電開始
- 10.16 東京都公害防止条例改正市民案をつくる会
- 11. 第11回モントリオール議定書北京會議に参加
- 2000. 4. フロン対策東京連絡会結成に参加
- 7.25 江戸川区長と懇談。再生可能エネルギー利用促進に関する意見書を提出
- 10. 特定非営利活動法人設立總會を開催
- 2001. 2. 2 東京都より特定非営利活動法人としての認証を受ける
- 4. 市民版グリーン電力証書「EDOGA-WAT」を発行
- 4.28 法人化記念シンポジウムを開催
- 10.21 揚水発電問題全国ネットワーク第5回大會に参加（～22 宮崎県綾町）
- 2002. 3. 2 ワークショップ「地域のエネルギー自給率アップ大作戦」で省エネゲームを実施

2002~2007

見えない? 発電所

市民立発電所建設の一方、省エネゲームづくりに取り組み、家庭向け省エネ対策として、省エネ家電買替モニターに応募した会員に買い替え費用の一部を無利子で融資する事業を始めます。また、冷蔵庫の性能表示問題が発覚した 2005 年には政府に性能基準検査の改善を求め、買い替えによる節電効果データを提供し、基準改正を実現しました。



この5年間のできごと

- 2002. 6.10 環境省「NGO/NPO 環境政策提言」で優秀提言に選ばれる
気候ネットワーク常任理事に就任
- 12.26 環境副読本『ハルナのちから』を出版
- 2003. 3.16 ワーカーズコープエコテックと省エネ分電盤を開発
- 4.15 合同出版から『ECOECO 省エネゲーム』を出版
- 5.26 江戸川区エコセンター説明会に出席
→設立に向けた世話人会に参加
- 8. 省エネ家電買い替えモニター事業スタート
- 8.11 NHK テレビ「ニュース 10」で活動が紹介される。
- 2004. 3.24 えどがわエコセンター設立記念式典に出席
- 4.19 江戸川区土木部「エコエネルギー導入に関する意見交換会」に出席
- 11. 東京都から環境保全推進員を委嘱される
- 2005. 2.16 NHK テレビ「おはよう日本」で活動が紹介される
- 5 愛・地球博に参加。省エネゲーム短縮版を使ったワークショップを開催
えどがわ区民ニュースより取材を受ける
- 7.16 AP bank fes05 に出展
冷蔵庫のカタログ値と使用実態が異なる問題について JIS 規格改正を政府に申入れ
冷蔵庫買い替えに伴う実測実績を日本電機工業会に提供
- 2006. 1.22 省エネルギー基準部会第 2 回冷蔵庫等判断基準小委員会を傍聴
- 3.27 博報堂と省エネ家電買い替えについて懇談
- 5. 1 冷蔵庫電力消費 JIS 規格が改正される
- 7.15 Ap bank fes06 に出展
- 9.10 廃食油の回収・精製を行うエコデス社訪問
- 12.26 えどがわ油田開発 PJ 準備会（江戸川区・エコデス社・エコセンター・足温ネット）設立
- 2007. 2.24 設立 10 周年イベント「どうなる？地球温暖化」を開催。映画『エンド・オブ・サバービア』を上映（メンバーが翻訳し字幕スーパーをつけました！）

2007~2012

脱原発を掲げる

環境省事業の受託、区地域エネルギービジョン策定への参画、区の次世代省エネ事業への提言、エアコン性能偽装問題に対するメーカー・政府への解明要求も行いました。温暖化対策が大きく踏み出すかに見えた2011年3月11日、東京電力・福島第一原発事故が発生し、状況は一変します。そして、足温ネットは脱原発を掲げました。



この5年間のできごと

- 2007. 6.28 環境省主体間連携事業「省エネ家電普及事業」を受託し、「えどがわエネルギー自給率アップ大作戦」をスタート
- 7.17 江戸川区地域エネルギービジョン「エコタウンえどがわ推進計画」策定委員を委嘱される
- 8.25 市民立・江戸川第2発電所(太陽光、3.0kW)を建設、発電開始
- 9. 8 省エネ家電普及セミナー(第1回)を開催
- 10.20 リユースショップ元気力発電所江戸川店に太陽光発電+キャパシタによる夜間照明システムを設置
- 2008. 1. 5 「動けば変わる!新しい社会づくりワークショップ」開催
- 2.23 省エネ家電普及セミナー(第2回)&節電所認定式を開催
- 7. テレビ東京系列「ガイアの夜明け」で活動が紹介される
- 10.25 えどがわ油田開発シンポジウムを開催
- 11. 9 東京都温暖化防止活動推進センター「エコ・コレクション」で優秀賞受賞
- 2009. 5.15 えどがわ油田開発PJが終結
エコポイント環境寄附の対象先として採択
- 9.11 江戸川区にカーボンオフセット事業を提案→次世代省エネ事業として実現
- 2010. 7.12 エアコンの性能偽装問題についてメーカーに公開質問状を送付
- 8.19 ヒートポンプ問題連絡会を立ち上げ
- 2011. 3.11 **東日本大震災と東京電力福島第一原発事故が発生**
- 6.11 脱原発アクション「えどがわ未来ウォーク」を実施(葛西→船堀)
- 7.29 ヒートポンプ問題連絡会と消費者庁長官との懇談に参加
- 11. 1 環境講演会「放射能×子ども×エネルギー」を開催
- 2012. 2.15 「明日のエネルギーを考えるワークショップ」を開催
- 5.14 環境絵本『ハルナのちから』を出版

2012~2017

自然エネ 売ります！

原発事故によって再生可能エネルギーへの関心が高まる中、2012年7月に再生可能エネルギーによる電気を全量固定価格で買取の制度が始まり、売電事業に参入します。そして、情報発信力強化に努め、市民電力連絡会やグリーン連合への参加、パタゴニア丸の内ストアやみんな電力(株)との協力・提携が実現しました。



この5年間のできごと

- 2012.10.17 発電事業チーム打ち合わせ
- 2013. 2. 7 台湾民進党代表団(蘇主席)が来訪
- 3.16 えど・そら発電開始イベントを開催
- 4. 5 えど・そら1号機(太陽光、10.58kW)を建設、発電開始
- 7.10 えど・そら2号機(太陽光、11.52kW)を建設、発電開始
- 7.13 山梨ソーラーシェアリング・ツアーを開催
- 9.21 市民・地域共同発電所全国フォーラム(京都市、~22)に参加
- 10.18 公式 Facebook ページを開設
- 11. 7 市民電力連絡会準備会に出席
- 2014. 2.21 市民電力連絡会発足記念フォーラムに参加
- 5.31 市民ソーラー「パネルソーラー祭り」を開催
- 6. 9 省エネゲーム更新について生活クラブ生協と意見交換
- 7. 6 中期計画づくりワークショップを開催
- 10.24 市民・地域共同発電所全国フォーラム 2014(金沢市、~25)に参加
- 2015. 5.16 市民ソーラー「パネルソーラー祭り」を開催
- 6. 1 オフグリッドハウス「松江の家」運用を開始
- 6. 5 グリーン連合設立記念シンポジウムに出席
- 7. 1 ホームページ全面刷新
- 7.10 パタゴニア丸の内ストアから活動状況のヒアリングを受ける
- 10.31 全国節電所フォーラム 2015 を開催
- 11. 6 みんな電力(株)と懇談
- 11.13 市民・地域共同発電所全国フォーラム 2015(小田原市、~14)に参加
- 2016. 1.16 移動式自立電源システムづくりワークショップを開催
- 4. 2 第2回えど・そらパーティを開催
- 8.19 福島高校生の視察受け入れ
- 10.14 みんな電力(株)と売電契約について打合せ
- 12. 8 えど・そら3号機(太陽光、22.0kW)を建設、発電開始
- 2017. 1.29 えど・そら3号機お披露目会を開催
- 3.30 みんな電力(株)に電力供給開始
- 6. 4 20周年記念イベントを開催

足温ネット 設立20周年に寄せて

●牛島 聡美さん（初代代表、弁護士）



足温ネットの設立20周年、大変おめでとうございます。常に、時代の深層を見つめて、未来を想像し、より良い環境を残すために、先端の意見を形成し、江戸川の地で実行してられました。その成果はドイツで紹介されるなど画期的なものであり、楽しく幸福な時間を共有できます。その活動に関われたことは、私としても大変勉強になり、さまざまな公害環境問題に関わる際の原点になっております。

私が、足温ネットの初期メンバーになる皆さんと出会ったのは、1996年、当時勤めていた江戸川法律事務所でした。

当時、東京23区内のぜん息公害患者を原告として、自動車による大気汚染について裁判を起こす頃でした。幼少時に、多摩川の橋を歩いて渡り、洗濯機のように泡立つ川面から、「川が

泣いている。」と心に迫ったことがありました。弁護士となってすぐに大気汚染公害裁判の準備に関わり始め、その裁判の情報を地域でお伝えしようとしたところ、江戸川法律事務所の鈴木篤弁護士から、地域の環境問題をやっている皆様にお会いできるようにして頂きました。

その集まりは衝撃的でした。もちろん喘息裁判のことも話しましたが、1997年12月に、京都で温暖化問題の国連会議を開くこと、地元である日本の市民に地球の未来に関する大きな責任があることを知り、逆に温暖化に関する取組に誘われました。

その後、1997年に足温ネット・えどがわを立ち上げ初代代表にして頂き、自動車を壊す際にフロン・ガスが大気中に放出されないよう、自動車解体業者さんの協力をお願いするため会いに行き、江戸川区の事業にもなるようお願いに行き、実現化しました。他方で、江戸川区内の小学生に地球温暖化の絵を描いて頂いて、京都会議の国連政府会議のロビーに飾って頂くようにし、私達もNGO会議に参加しました。

このように、もともと環境公害問題に深く関わってきていたメンバーの知識と想像力、行動力でさまざまなことができました。

1999年から、フロン回収事業を東京都にも政策提言するため「東京都公害防止条例改正市民案を作る会」を立ち上げ、代表となり、その後、幅を広げて「環境ウオッチTOKYO」と改称してパブリック・コメントを続けております。

これらの活動の過程で、アメリカ連邦政府が、フロン・ガスを大気中に放出したニューヨーク州に高額の民事罰を請求したケースを知ります。約1億円で和解したとのことでした。日本とのあまりの差に驚き、その背景を学ぶために、日弁連（日本弁護士連合会）からニューヨーク大学に環境法の客員研究員として2000年から2001年に派遣留学させて頂きました。

なお、その際に生まれた子どもをきっかけに、足温ネットが、『ハルナの力』を出版されたことは、大きなプレゼントとなりました。その10年後も続編を出して頂き、とても嬉しかったです。（子どもも、小1の時に、温暖化に戸惑う雀のお話を作りました。20周年を機にお披露目したいと思います）

異常気象の激化は京都会議の頃の予想をはるかに超えている面があり、地球の声を良く聞き柔軟な発想を実行する皆様のご活躍に大いに期待致します。



●^{おおくり}大栗ひろみさん（元理事）



私は 30 年くらい前に消費生活コンサルタントをしており
ました。暮らしの中での環境問題、特に家庭の省エネに興
味を持っていました。その頃区に「えどがわエコセンター」
ができ一区民として参加したところ「足温ネット」の活動
を知りました。運営委員会に出席するようになり、それま
では知り得えなかった情報や面白い話を毎回聞き楽しく
なりました。「へえ～勉強になるなあ」と思っていたらい
つの間にか在籍 14 年です。

活動の中では省エネ家電買い替えサポート事業を担当
しました。融資事業はまったく初めてで戸惑いましたが、電気代が安くなるというのは主
婦感覚を快くくすぐりましたね。TV 番組「ガイアの夜明け」や新聞等でたくさん取り上げ
ていただきました。しかし小さな NPO で常駐のスタッフがおらず対応が十分でなかった
のは残念でした。20 年前に比べ家庭の電力消費量は冷蔵庫に限らず全般的に減少してい
るように思います。省エネ意識の高まりと技術の進歩は温暖化防止対策のごく一部ですが成
果はあったと言えるかもしれません。

●^{おおこうち ひでひと}大河内秀人さん（理事）



お釈迦様が菩提樹の下で覺りを開いて、最初に出会った修行
者に説いたのが「苦・集・滅・道」の教えでした。地球温暖
化で最も影響を受ける自然や珊瑚礁の島の苦しみを受け止
め、その原因を徹底的に論理的に解明し（集）、その苦しみ
が根本的に解決された世界（滅）をめざし、楽しく効果的な
方法（道）を提案し、形にする足温ネットの活動は、まさに
仏道の実践そのものです。

朝廷がもたらした鎮護国家のための仏教を、民衆自らを主役
に変えた鎌倉仏教の流れを汲む寿光院も、今年が開創 400 年
に当たります。すべての命が尊重され、権力と利益を貪るあ
らゆる暴力を排除する、正義と平和を追求する市民社会（極楽浄土）をめざし、環境・人
権・平和・福祉など、それぞれの分野で活動する人々と共に、足元を固め、世界に発信し
て行く思いを新たに、この節目を新たなステップにしたいと思います。

●^{そえた あき}添田 亜紀（元運営委員、北九州市環境ミュージアム次長）



20 周年おめでとうございます。

「ハルナのちから」を田中優さんから引き継ぎ、ゴジドーとい
う名の新キャラクターを登場させた添田亜紀です。当時、お腹の
中にいた子どもは現在 5 歳。九州で元気に暮らしています。残念
ながら 2017 年 4 月 14 日の熊本・大分地震の影響により南阿蘇の
土地にしばらく戻れなくなりました。こちらは、自然災害なので
東北の人災とは違い時がたてば、戻れるでしょう。

私の子どもがハルナと同じ 10 歳になった時、また同じ原子力発
電による過ちを起こさないためにも、私たちに本当は何が大切な
のか考えながら環境問題を解決する活動を、これからもつづけて
いしましょう。私も地方からせつせと発信していきます。

たかだ ともゆき
●高田 知行さん（元理事、ぶどう&りんご農家）



足温ネット 20 周年おめでとうございます。私が足温ネットに関わったのは 10 周年前後の 5 年間ほどだったと思います。私に起こった変化は、少なからず足温ネットとの地域活動の時間が大きな糧となっています。私と足温ネットとの出会いは地域通貨ワット。そして、省エネゲームワークショップ、家電買替支援事業、PV とキャパシター組合せによる店舗夜間照明作成と様々な経験をさせていただきました。今は、江戸川から遠く離れ、信州箕輪町にて脱サラ移住就農。ぶどうとりんご農家になっています。この大きな人生の変化のきっかけをくれた一つに、足温ネットが大事にしていた「足元の活動」があります。太陽

の恵みをエネルギーに、食に。自然の力を、自然と共に使い、使われる。そんな思いの原点をくれた足温ネット。これからもさらなる発展を願っています。

たなか てっし
●田中 徹二さん（初代事務局長、グローバル連帯税フォーラム代表理事）



足温ネット 20 周年！ がんばったね。おめでとうございます。足温ネットは 1997 年の 1 月に設立され、牛島聡美弁護士（当時、江戸川法律事務所）が代表に、そして私が事務局長に就任しました。が、その設立総会もそのあとに行われた（であろう）「温暖化を考えよう！江戸川区民の集い」についての記憶はまったくありません（情けない）。

その後、「区内の自動車解体業者らの協力を得て、廃棄カーエアコンからのフロンガス回収市民プロジェクトを開始」し、これが後に区の事業となったのですが、事業になる前に牛島代表と二人で中里喜一区长（当時）にお会いし要望したことは覚えています。

実は私は田中優氏とともに当時江戸川区の職員でして、この時は職員としてではなく市民活動家として区長に会ったわけです。

余談ですが、中里区長には、1989 年の区の現業合理化に反対する団体交渉で組合役員として会ったことがあります。また、何年かは忘れましたが、区内の青洞の家の高橋明子ちゃん（名前間違ってますよね？）を普通保育園に入れるべく、区への直接行動として、区長室を占拠しましたが、その占拠メンバーの一員として私も区長室で 1 泊しました。処分は必至か、と思われましたが、何の音沙汰もなくホットしたことを覚えています。しかし、職員としての昇格・昇給は大幅に遅れてしまいましたね。

ともあれ、その後 11 月の COP3 京都会議にみんなで乗り込みました。大河内さんが紹介してくれたお寺二か所に泊まり、楽しかった思い出があります。京都の風呂屋さんには電気湯もある、とか。

最後に、今後とも足温ネットのいっそうの発展を祈念して、筆を置くことにします。

たなか ゆう
●田中 優さん（元理事、環境運動家）



足温ネット設立 20 周年おめでとうございます。設立時のメンバーの一人としてとてもうれしく思います。残念ながらぼく自身は途中で岡山県に引っ越し、この機会をメンバーとして迎えられなかったのですが、創設時に考えたことは今の時点でも変わらないと思っています。創設時に話していたことはこんなことでした。「あちこちで地球温暖化問題は取り上げられるようになったけれど、どこか他人事、国のイニシアチブでなければ何もできないことだからと「1990 年比でマイナス 20% にしろ」だの「30% にすべき」だのと口ばかりの議論になっていないか。それより自

分たちの足元からできる解決策を模索すべきなんじゃないか」というものでした。そこから温暖化係数 8,000 倍という「特定フロン」が江戸川区の自動車解体業からたくさん出されていることを解体事業者と協力して回収を始めたり、家庭内の最大排出源である電気の、これまた最大消費量をしめる冷蔵庫に資金融資し、消費電力量を 90% 以上も減らせる「省エネ冷蔵庫」へと買い替える活動をしたりしました。

副産物として、実際のデータから「省エネ冷蔵庫のサバ読み」や「エアコンのデータのごまかし」などを見つけ、今や正確な省エネ性能が表示されるようになったのでした。こうした実績は足温ネットが誇るべき功績だと思っています。見つけて交渉し、対立ではなく解決しようと努力した成果ではないでしょうか。

そうしたことは今も散見します。「自然エネルギーを伸ばせばいい」ではなく、実際に使えるようにして意味を持ちます。ところが電圧が低くて他に届かなかったり、大規模に作ったのに途中で捨てられたりしている電気もあります。こうしたことを足元から解決することで、本当の温暖化防止ができるのだと思うのです。

メンバーが良かったのだと思いますし、今後も地域からの発信で新しいものを作ってほしいと思います。これまでご苦労様でした。これからも努力してください。次の世代に壊されていない環境をバトンタッチできるように…。

●奈良 由貴さん（現代表理事）



1997 年、COP3 を目前に温暖化問題に対して地域密着型の行動をするべく誕生した「足温ネット」。20 年経ったんですね。これまで、なんといろいろなことに取り組んできたのでありましょう。しかも、どれもこれも画期的で先駆的なことばかり。メンバーたちがそれぞれ他の市民運動につながりを持ち、その広い情報収集力で知恵を出し合い、面白い取り組みにつなげてきました。まさに、それこそが 20 年の継続のパワーだったのではないのでしょうか。「面白そうだからやってみよう！」の思いを企画力・機動力、そして土壌場の底力でよくぞこなしてきたなど、感慨深く思い起こすのは私だけでしょうか？

いずれにせよ、楽しくなければ行動するモチベーションは続きません。集うメンバーが面白いからこそ楽しい。それが「足温ネット」の大きな魅力なのです。「継続は力なり」です。これからも新しい力と知恵を集めながら、楽しく温暖化問題に取り組んでいきましょう。

●藤居阿紀子さん（理事）



1997 年当時、“地球温暖化”の言葉すら聞きなれない、環境問題ともつながらない時期に「足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ」の名のもとで、まずは足元である地域で温暖化問題に取り組んでいこうとスタートしました。最初の大イベントは、COP3 の国際会議場とは別に京都市内の会場で NGO による様々な企画が催され、足温ネットは江戸川区内の小学生が描いた環境問題をテーマとした絵の展示と、地域活動として最初実践した、温暖化防止に大きな影響を及ぼす温室効果ガスである「フロン回収事業」についてアピールしました。

この準備に向けて、足温ネットの事務局をしていた田中徹二さんと共に区内小学校を回り、COP3 に子どもたちの絵を持って行きたいと校長先生にお願いに回りました。環境学習に熱心な数校が提案を承諾、子どもたちの絵を持っていくことができました。また、フロン回収事業に向けて、都内でも多くの自動車解体業者が存在する区内の業者を一軒ずつ訪ね、当時は解体時に空気中に放出していた「特定フロン」をボンベに集める協力をお願いして回りました。その結果十数社が

賛同し、市民と事業者との連携によるフロン回収事業が実現しました。

こうした草の根の運動からスタートした足温ネットは、優れた発想で次々と新しいことへの挑戦を重ねてきました。私自身はこの運動に関わることで多くのことを学び、また多くの人とつながることができました。これからも「地域で地道に」つづけていきたいと思います。



● ^{やなぎさわ}柳澤 ^{いちろう}一郎さん (理事)



2002年に会社を辞めた後、翻訳業の傍ら林業の真似事などをしていました。足温ネットのことを知ったのはそんな頃であった。運営委員会への初参加は2008年の5月20日なので、ちょうど9年前だ。

会社では研究所勤務が長かった。研究という仕事は配線、配管、機器分析から報告書作成まで、ある程度のことは自分で何でもせねばならない。携わった分野も色々であったが、太陽電池が最も遣り甲斐があった。それらの経験は足温ネットで活動するためだったのか、と最近感じる時がある。ここでの活動、勉強、人との出会いは本当に楽しい。世の為人の為、という動機、使命感は無論重要だが、何事も楽しくなければ続かない。

あと何年動けるか分からないが、次の30周年も笑顔で迎えられたらと思っている。四十周年も、というのは少々欲張り過ぎか。

● ^{やまざき}山崎 ^{もとひろ}求博さん (理事／事務局長)



足温ネットが設立された当時、28歳だった私は地方公務員として働く傍ら、環境問題に関する個人誌を作ったり、日の出町で起きていたゴミ処分場建設問題で建設反対運動に参加したりしていました。環境問題にかかわるきっかけは、学生時代の1990年夏に参加した「全国自然保護学生交流会」です。これは年に一度、大学の環境サークルが一堂に会して様々な問題について話しあう場で、大学で古代中国農業史について卒業論文を書いていた私は、有機農業の分科会に関心を持ちました。そして、分科会に参加した東京農業大学の学生と奈良県で「自然農法」に取り組む川口由一さんの田畑を見学に出かけました。

農業も化学肥料も使わない自然農法の畑は、雑草が生え放題で作物が見えないほどでした。しかし、川口さんは「雑草の根が土を耕してくれし、鋤込めば肥料にもなる。収量は通常のやり方比べて6割ほどにしかならないが、作業時間は1日2時間あれば十分だ」と話してくれました。それを聞いた瞬間、頭の中で何かが動いた気がしました。「お金をかけて減反政策を進めるより、全国で自然農法をやったら減反政策は必要ない！」と。それから、そうした目線で社会を見つめるようになりました。そして、環境問題をめぐるしわ寄せが弱者に向けられることを知り、弱者にしわ寄せを押しつける社会の有り様を変えたいと強く願うようになりました。

以上が、20年にわたる足温ネット活動の原点です。私を環境サークルに招いてくれた高橋一公さん、足温ネットの設立メンバーと出会うきっかけを作ってくれた知野二郎さんに心から感謝申し上げます。